

「さんべ夢ステージ【さんべ祭編】」

1 趣 旨

- ・将来、主体的に社会に参画しようとしている青年が、リーダーシップを身につけるための体験を通じた学びの場を提供する。
- ・リーダーシップをキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返す中で、対人関係力、コミュニケーション力、意思決定力等リーダーとして必要な資質の向上を図る。

2 事業の概要

- (1) 期 日
- ①企画編 平成27年 8月 29日(土)～ 30日(日)【1泊2日】
 - ②試行編 平成27年 9月 17日(木)～ 18日(金)【1泊2日】
 - ③準備編 平成27年 10月 2日(金)～ 4日(日)【2泊3日】
 - ④本番編 平成27年 10月 16日(金)～ 18日(日)【2泊3日】
- (2) 参加者
- ①企画編 22名(大学生22名) ※募集30名
 - ②試行編 18名(大学生18名) ※募集30名
 - ③準備編 38名(大学生38名) ※募集50名
 - ④本番編 40名(大学生40名) ※募集50名

(3) 主な研修内容

【①企画編】

1日目午後・夜	○アイスブレイク ○テーマ決め ○企画の班編成・話し合い
2日目午前・午後	○企画の話し合い ○ふりかえり

【②試行編】

1日目午後・夜	○アイスブレイク ○テーマの確認 ○企画の班編成・話し合い・試行
2日目午前・午後	○企画の話し合い・試行 ○プレゼンテーション ○ふりかえり

【③準備編】

1日日夜	○アイスブレイク ○テーマの確認 ○企画の班編成・話し合い・準備
2日目～3日目午後	○企画の話し合い・準備 ○ふりかえり

【④本番編】

1日日夜	○テーマの確認 ○企画の準備
2日目	○企画の準備 ○企画の運営「さんべ祭1日目」
3日目	○企画の運営「さんべ祭2日目」 ○「ふりかえり」

3 成果と課題

《成 果》

- ・全編を通して、参加者が主体的に活動できるように、担当職員はファシリテーター・アドバイザーの役割を担うこととした。①企画編では、昨年度参加者からさんべ夢ステージの様子を伝え、参加者全員でイメージを共有した後、さんべ夢ステージの「テーマ」について全体で話し合った。意見交換しやすいよう少人数グループに分かれ、KJ法やプレゼンテーションを行うなどして、『ぐうーと～さんべがつなげる“えん”～』という、参加者の想いが込められたものに決定することができ

た。

- ・ 決定したテーマを基に、参加者の希望や願いを踏まえながら4つの企画班を編成した。少人数での班編成により、役割分担を明確にするとともに自分の意見を話したり、他人の意見を聴いたりしながら合意形成を図り、試行錯誤しながら仲間と共に問題解決していくことで、対人関係力等リーダーとしての力量を高めることができた。
- ・ ①企画編～③準備編では、毎回の参加者の顔ぶれが変わっても、より良い人間関係構築の場になるように活動前にアイスブレイクを行い、その中で「リーダーシップ」や「人間関係能力」についても学ぶ機会を設定した。また、学年を問わずお互いの立場や気持ちを理解しながら行動するよう助言したことで、良好な人間関係を築きながら活動することができた。
- ・ ①企画編～③準備編では、新たなメンバーが加わる毎に、希望を踏まえながら班編成を行った。同時に、さんべ夢ステージのテーマや各班のねらい・目的を再確認し、共通認識を図った。また、活動の様子や決定した事項、今後の役割、進捗状況について、リーダー班や各班のリーダーを中心に「LINE」や「Facebook」を効果的に活用することで、参加者同士や担当職員との連携を密にし、情報の共有を図ることができた。
- ・ 全編を通して参加者が安全に活動できるように、また、④本番編では来場者に安心して楽しんでもらえるように、参加者に対して活動を行う場所の特徴や必要な用具の準備・使い方について要所所で声を掛け合って注意喚起を図った結果、怪我なく感動的なフィナーレを迎えることができた。

《課題》

- ・ 本事業は、継続10年目で流れも定着し、これまでに数多くのボランティア（主に学生）が本事業の企画・運営に携わってきた。ボランティア養成事業のレベルアップを図るためにも、これまでの参加者が、本事業で得た知識や技能を生かせる事業を立案することや「さんべ祭」の企画・運営に参画する機会を与えることが必要である。



(担当：企画指導専門職 今井 隆雄)